

北谷町学びのプロジェクト・学力向上

学校教育課

1 取り組み内容

(1) スマイルプログラム

- ① 各学校6回以上実施
- ② 各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間でも良さの活用する学校の増加
- ③ 毎年公開授業の実施（小学校2校、中学校1校）
- ④ 仲村先生（SSW）、岡田先生（聖栄大学教授）の講演・実習

(2) 能動的な学びのある授業

- ① 北谷町ニライっ子実践9項目の実践
- ② 授業スタンダードの共通実践
- ③ 自分の考えや、意見を言える場面の設定
- ④ 授業における課題（問題の中の考えさせる部分）や発問の工夫

(3) 支持的風土のある学級・学年づくり

- ① ハイパーQ U検査による子ども理解と対応
- ② 男女で区別しない名簿の実施

2 成果

- (1) ハイパーQ U検査において、小学校の満足群の増加（全国超え）
- (2) ハイパーQ U検査において、中学校満足群の安定（全国超え）
- (3) 問題行動の沈静傾向
- (4) 小学校における学力の安定（－5％以内）
- (5) 中学校数学の向上、社会・英語の向上（県平均超え）

3 課題

- (1) 不登校の増加傾向が止まらない
- (2) 同じ児童生徒が問題行動を繰り返している
- (3) 中学校における授業改善

4 対応策

- (1) 学びのプロジェクトの改善
- (2) 計画的・組織的な指導援助システムの充実
 - ① 特に2次対応、3次対応の充実
- (3) 不登校予備軍への早期発見・早期対応と小中連携
 - ① 年10～29日欠席がある児童・生徒
 - ② 家庭に不安要素がある児童・生徒
 - ③ ADHD等の発達障がいを抱える児童・生徒
- (4) 中学校における、主体的・対話的な深い学びのある授業の強化
- (5) 学校ICT環境の整備

学校における貧困対策

学校教育課

- 1 貧困の課題
貧困が連鎖している（親→子→孫・・・）。
これを断ち切るとともに、新たな貧困を生まないことが重要である。
- 2 貧困を生まないために
高校へ進学し、正規の仕事に就くことが大切である。（キャリア教育の推進）
- 3 学校の取組目標
非行・怠学的要因の不登校、心的要因の不登校、問題行動の減少を図る
- 4 学校の取組（教育委員会の支援）
 - 学校全体による「組織的・計画的な指導援助システム」への取組
 - スマイルプログラムの実施
 - ハイパーQ U検査結果の活用
 - スクールソーシャルワーカー（SSW）、スクールサポーター（SS）の活用
 - 就学援助、無料塾（ちーたん、エンカレッジ）、青少年支援センター等の周知
- 5 スクールソーシャルワーカー（SSW）の役割・・・学校教育課に2名配置
 - (1) 問題を抱える児童生徒が置かれた環境への働きかけ
 - ①学校等での教育相談や家庭訪問を繰り返すことで、信頼関係を築き、プログラム等を実施する事で、悪循環となっている問題のある行動の連鎖に歯止めをかける支援
 - (2) 関係期間等とのネットワークの構築、連携・調整
 - ①学校での情報収集、必要な機関との連携
 - ②貧困家庭と思われ、就学援助の手続きがなされていない場合、手続き支援
 - ③心的要因を持っており、引きこもりの傾向がある場合、就労支援・自立支援施設と連携
 - (3) 学校内におけるチーム体制の構築、支援
 - ①生徒指導部会や教育相談部会、ケース会議へ参加
 - ②基本的なアドバイスと個別事案ごとにケース会議へのアドバイス
 - (4) 保護者、教職員等に対する支援・相談・情報提供
 - ①教職員の相談援助活動のスーパーバイズ（指導・監督・助言）
 - ②生徒指導上の支援・援助の提案・助言
 - ③保護者への支援・援助の提案・助言
 - (5) 教職員等への研修活動
 - ①各学校の校内研修
 - ②町教育講演会
 - ③町主催研修会での講話
 - ④スマイルプログラムに関する研修
- 6 スクールサポーター（SS）の役割・・・中学校に各1名、計2名配置
 - (1) 問題を抱える生徒の立ち直り支援
 - (2) 学校と地域、関係機関のパイプ役として情報連携を図る
 - (3) 生徒の非行防止や安全確保に努める（校内・地域の巡視、見守り、指導）
 - (4) 問題を抱える生徒との信頼関係を築き、問題行動の未然防止に取り組む
 - (5) 問題を抱える生徒の居場所づくり、体験学習の実施
 - (6) 問題を抱える生徒の保護者との信頼関係を築き、情報連携、提案・助言

H29 北谷町学びのプロジェクト

北谷幼稚園・北玉幼稚園・浜川幼稚園・北谷第二幼稚園・北谷小学校・北玉小学校・浜川小学校・北谷第二小学校
・北谷中学校・桑江中学校

子ども達自らが、学業やよりよい学校生活づくりに、相互に協働して取り組み、その中で、互いの違いや良さを認め合い、心のつながりを感じることができる「すべての子に居場所のある」学級や学校づくり

1 スマイルプログラムの実施

「体験を通した豊かな人間関係づくり・具体的な人付き合いのスキルを育む」

自分づくり 個々への成長支援
友だちづくり 対人関係の改善と発展
仲間づくり 所属集団の発展と改善

2 能動的な学びのある授業

『学び合い』の授業を行うことで、学力面、コミュニケーションや学びの質を高まり、学習意欲への効果。

子ども達同士が『学び合い』に取り組むことによって意欲的に学習活動に取り組むことができ、理解力が高まるだけでなく、全員で理解するという目的に向かうという活動を通し、コミュニケーション力や、人間関係づくりにも効果的にはたらく。

3 支持的風土のある学級・学年づくり

- Q-U実施による子ども達一人一人についての理解と対応方法を確認し、支持的風土のある学級・学年づくりのために、能動的な学びのある授業と、コミュニケーション力、人間関係づくりに大きく関わる重要な要素として、「男女で区別しない名簿」を導入する。
- 男女で区別しない名簿の導入は、不要な男女区別や男子先、女子後の無意識の固定概念を崩す効果や、相互の人間関係の構築のさらなる高まりへの期待できる。

北谷ニライっ子実践項目

幼稚園

☆☆☆ 北谷ニライっ子実践2項目 ☆☆☆

(1) 話をきく

- ・相互のコミュニケーション、学ぶ力の基本

(2) 立腰

- ・主体性や集中力を育む、立腰の姿勢の定着



小学校・中学校

☆☆☆ 北谷ニライっ子実践9項目 ☆☆☆

<授業づくり北谷町スタンダード>

(1) めあてと、まとめが示された授業

- ・「まとめ」を踏まえた「めあて」の提示

(2) 教材研究の工夫

- ・子ども実態を生かす授業計画
- ・諸調査の課題を踏まえた単元計画（年計）

(3) 板書の工夫

- ・子どもたちが学習指導の過程を振り返ることができる板書計画の作成
- ・教師が指導過程を振り返り、授業の改善につなげる

(4) 言語活動（思考・判断・表現）の充実

- ・「学習のねらい」の達成に向けた言語活動の設定。
- ・考えをまとめたり表現したりする時間の確保
- ・学び合いの中から、主体的・対話的な深い学びへ

(5) 形成的評価の実施

- ・授業の中で遅れやつまずきを的確に把握し、授業の中で具体的な支援を講じる

(6) 授業マネジメント

- ・一単位時間で完結する授業の実施

(7) 自己評価・振り返りの実施

- ・子どもが授業での自身の行動や思考を客観的に把握し、本時の学びを認識する

(8) 宿題と授業との連動

- ・本時の学習の定着をねらった復習課題の提示と次時へつながる意図的な予習への取組

(9) 学習規律・立腰の確立

- ・共通した学習規律を指導し、学習を支える力を育む
- ・授業開始、終わり等の立腰の共通実践



北谷町授業時の共通実践（授業スタンダード）

<授業前>

- ・学習の準備（必要なものを机の上に置く）
- ・チャイムと同時に授業を開始する（立腰の共通実践）

<授業中>

過程	共通実践	規律	小学校中学校北谷二ライっ子実践9項目との関連	規律
導入	①既習と本時をつなぐ	聞く態度・話し方・読み方・書き方	→ ⑤ 形成的評価の実施 前時の確認テスト等を活用した導入 評価補助簿で学習状況を把握する ⑧ 宿題と授業との連動 <u>復習や予習を活用した導入</u>	⑨ 学習規律・立腰の確立 共通した学習規律を指導し、学習を支える力を育む
	②子ども達の興味・関心を喚起する		→ ② 教材・教具の工夫 知的好奇心を引き出す。	
	③学習課題（めあて）を板書する 板書したものをノートにかく		→ ① めあてと、まとめが示された授業 学習目標、達成目標を持たせる。 <u>ゴールを見据えた授業づくり</u>	
	④学習方法や進め方を、分かりやすく提示する		→ ② 教材研究の工夫 学習の見通しを持たせる。	
展開	⑤子ども達の考えや着想を引き出す発問	姿勢（立腰）	→ ② 教材研究の工夫 ③ <u>板書の工夫</u> 学習のねらいを意識する。	
	⑥じっくり考える・表現する機会を設定する <u>学び合う機会を設定する</u> <u>※能動的な学び合い</u>		→ ② 教材研究の工夫 子どもが考えを発する機会を設定する。 ④ 言語活動（思考・判断・表現）の充実 子どもの思考を整理する（板書、ノート指導） ⑥ 授業マネジメント	
	⑦計画的な机間指導で学習状況を把握する		→ ① めあてと、まとめが示された授業 学習目標、達成目標を持たせる。 ⑤ 形成的評価の実施 遅れやつまずきへの支援	
	⑧子ども達の思考を促し、方向づける板書		→ ③ 板書の工夫（板書、ノート指導） 板書が子ども達にとって有益であったか、 自らの学習指導の過程を振り返り、板書を改善していく。	
終末	⑨学習課題（めあて）と連動したまとめ		→ ⑦ 自己評価・振り返りの実施 学習内容定着の確認を行う。	
	⑩形成評価による学習理解の定着の確認		→ ⑤ 形成的評価の実施 学習内容定着の確認を行う。 評価補助簿で学習状況を把握する。 ① めあてと、まとめが示された授業 学習目標、達成目標を持たせる。 ⑧ 宿題と授業との連動 定着を図る復習課題の提示、予習	

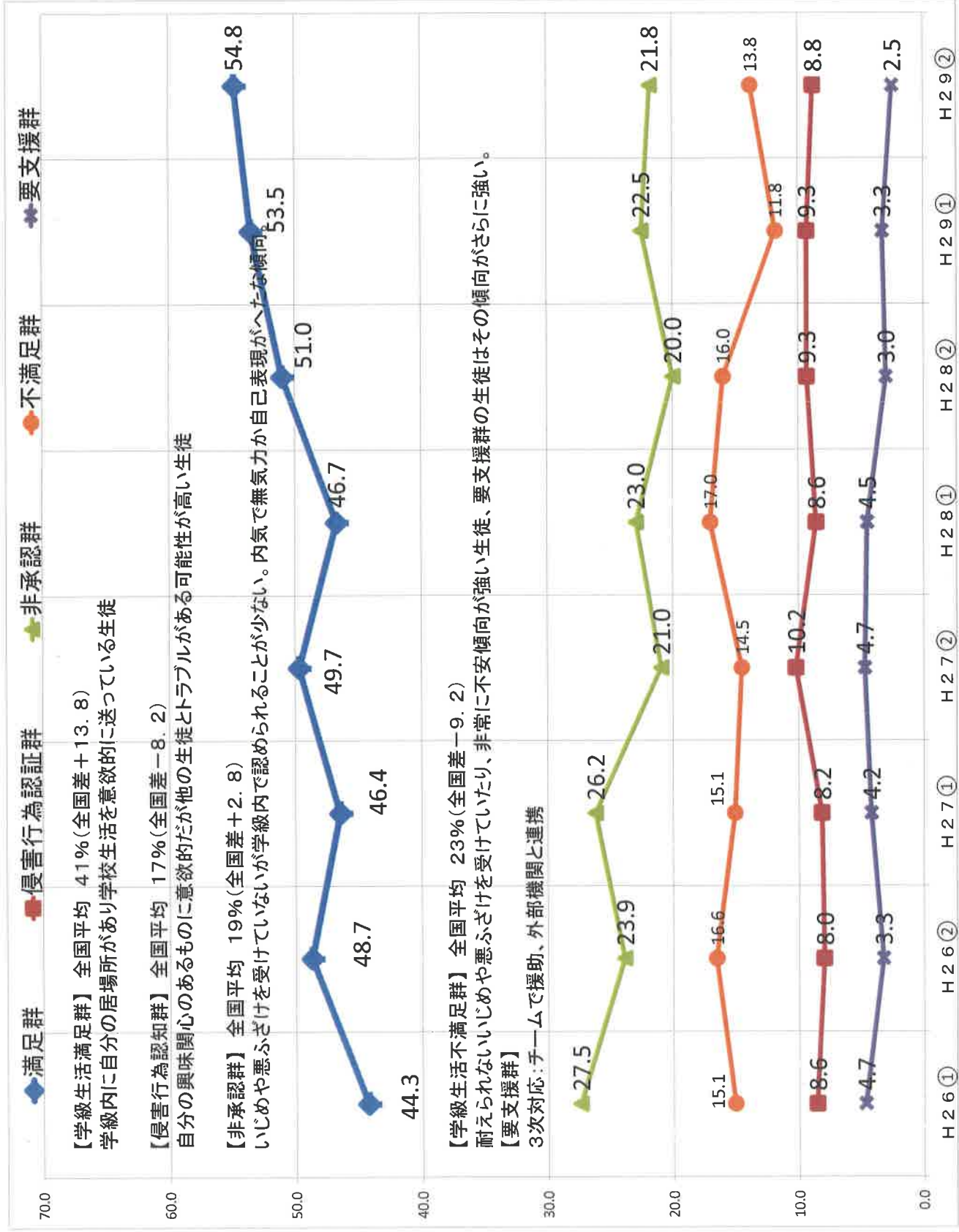
<授業後>

- ・チャイムで授業を終わる（立腰の共通実践）
- ・次の学習の準備をする

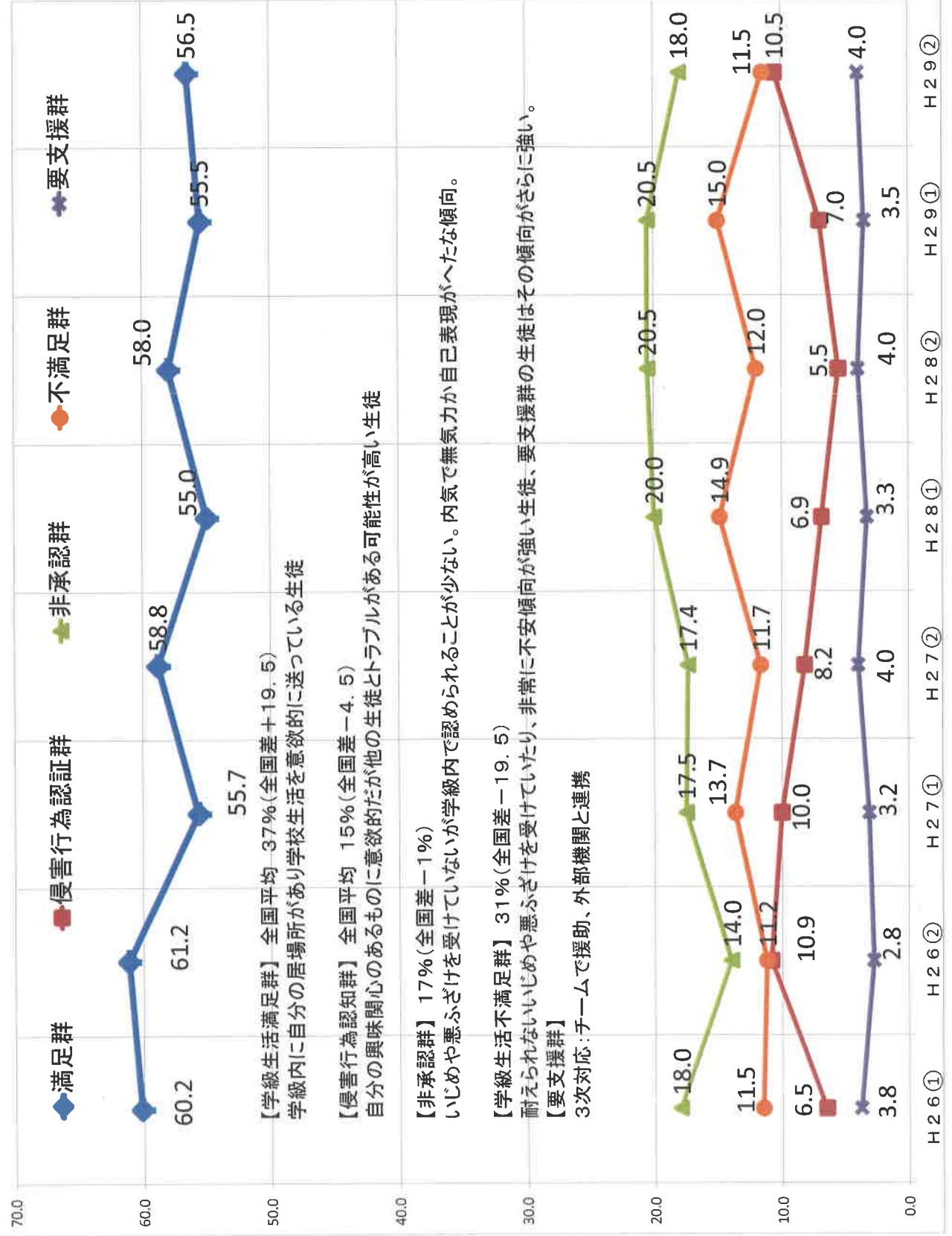
	満足群
H26①	44.3
H26②	48.7
H27①	46.4
H27②	49.7
H28①	46.7
H28②	51.0
H29①	53.5
H29②	54.8

	侵害行為認知群	非承認群	要支援群
H26①	27.5	23.9	15.1
H26②	26.2	23.0	16.6
H27①	26.2	21.0	15.1
H27②	23.9	23.0	17.0
H28①	21.0	20.0	14.5
H28②	22.5	21.8	16.0
H29①	22.5	20.0	11.8
H29②	21.8	21.8	13.8

	満足群	侵害行為認知群	非承認群	要支援群
H26①	44.3	48.7	49.7	51.0
H26②	44.3	48.7	49.7	51.0
H27①	44.3	48.7	49.7	51.0
H27②	44.3	48.7	49.7	51.0
H28①	44.3	48.7	49.7	51.0
H28②	44.3	48.7	49.7	51.0
H29①	44.3	48.7	49.7	51.0
H29②	44.3	48.7	49.7	51.0



	満足群
H26①	60.2
H26②	61.2
H27①	55.7
H27②	58.8
H28①	55.0
H28②	58.0
H29①	55.5
H29②	56.5
	侵害行為認知群
H26①	6.5
H26②	10.9
H27①	10.0
H27②	8.2
H28①	6.9
H28②	5.5
H29①	7.0
H29②	10.5
	非承認群
H26①	18.0
H26②	14.0
H27①	17.5
H27②	17.4
H28①	14.9
H28②	13.7
H29①	11.2
H29②	10.9
	要支援群
H26①	3.8
H26②	2.8
H27①	3.2
H27②	4.0
H28①	3.3
H28②	4.0
H29①	3.5
H29②	4.0



北谷町教育委員会問題行動の推移（平成30年2月現在）

主な 問題行動	小学校							中学校							北谷町全体												
	暴 力				金 銭 せ び り	喫 煙	飲 酒	家 出	計	暴 力				金 銭 せ び り	喫 煙	飲 酒	家 出	計									
	対 教 師	生 徒 間	対 人	器 物 破 損						対 教 師	生 徒 間	対 人	器 物 破 損														
平成26年度	4	2	0	1	0	7	1	2	17	10	5	0	1	3	12	2	0	33	14	7	0	2	3	19	3	2	50
平成27年度	0	3	0	4	0	0	0	0	7	2	7	2	0	1	0	1	0	13	2	10	2	4	1	0	1	0	20
平成28年度	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	1	0	4	3	2	12	1	2	0	1	0	4	3	2	13
平成29年度	2	7	0	4	0	0	0	1	14	1	8	0	4	1	7	0	6	27	3	15	0	8	1	7	0	7	41

※ 平成29年度の生徒間暴力については、小中学校ともに言い合いから相手を押した、手を出してしまった、ケンカになった等の計上による増加。

※ 平成29年度の器物破損については、小中学校ともふざけている中で窓にぶつかりガラスが割れた等の計上による増加。

※ 平成29年度の中学校の喫煙の増加については、校外での喫煙の増加。

いじめ	小学校		中学校		町全体		
	いじめ	いじめ解消	いじめ	いじめ解消	いじめ	いじめ解消	
平成26年度	12		4		16		
平成27年度	124		3		127		
平成28年度	180	176	19	12	199	188	
平成29年度	373	287	44	22	417	309	

※ いじめについては平成27年度より、放っておけばいじめに発展したかもしれない「いじめの芽」や「いじめの兆候」についても認知件数として計上する事となったため急激に増加している。また、その後の増加については、その周知が進み、先生方が細かく子どもたちを観察している結果と捉えられる。

※ いじめ解消については、3ヶ月以上問題が再発しなかった件数を計上したもの。

※ 不登校については、病気・経済的理由・フリースクール等以外で学校を休んだ日数が30日以上の子どもの児童生徒数を計上したもの。

不登校	小学校		中学校		町全体	
	不登校	登校復帰	不登校	登校復帰	不登校	登校復帰
平成26年度	14	0	30	0	44	0
平成27年度	9	0	34	2	43	2
平成28年度	10	1	49	1	59	2
平成29年度	12	0	53	1	65	1

沖縄県	
平成27年度	平成28年度
暴力行為	
718件	1,430件
いじめ認知	
2,217件	12,322件
不登校	
2,191人	2,367人

平成29年度全国学力学習状況調査結果

小学校	H28国語A	H29国語A	H28国語B	H29国語B	H28算数A	H29算数A	H28算数B	H29算数B
北谷町	68.0%	72.0%	53.6%	55.0%	77.8%	78.0%	44.2%	43.0%
全国	72.9%	74.8%	57.8%	57.5%	77.6%	78.6%	47.2%	45.9%
沖縄県	73.4%	73.0%	58.1%	57.0%	80.7%	81.0%	47.7%	46.0%
全国と町との差	-4.9%	-2.8%	-4.2%	-2.5%	0.2%	-0.6%	-3.0%	-2.9%
県と町との差	-5.4%	-1.0%	-4.5%	-2.0%	-2.9%	-3.0%	-3.5%	-3.0%
中学校	H28国語A	H29国語A	H28国語B	H29国語B	H28数学A	H29数学A	H28数学B	H29数学B
北谷町	67.6%	70.0%	59.1%	64.0%	49.3%	58.0%	32.4%	41.0%
全国	75.6%	77.4%	66.5%	72.2%	62.2%	64.6%	44.1%	48.1%
沖縄県	71.3%	72.0%	63.1%	67.0%	54.3%	58.0%	37.0%	42.0%
全国と町との差	-8.0%	-7.4%	-7.4%	-8.2%	-12.9%	-6.6%	-11.7%	-7.1%
県と町との差	-3.7%	-2.0%	-4.0%	-3.0%	-5.0%	0.0%	-4.6%	-1.0%

到達度調査の結果 3年生（国語・算数） 4年生（算数）

小学校3年生国語（％）

沖縄県 70.5

北谷町 69.4

差 -1.1

30％未満 32人

小学校3年生算数（％）

沖縄県 80.2

北谷町 80.0

差 -0.2

30％未満 9人

小学校4年生算数（％）

沖縄県 59.1

北谷町 63.5

差 +4.4

30％未満 17人

到達度調査の結果 5年生（国語・算数・理科）

小学校5年生国語（％）

沖縄県 66.6

北谷町 68.4

差 +1.8

30％未満 10人

小学校5年生算数（％）

沖縄県 55.1

北谷町 57.0

差 +1.9

30％未満 36人

小学校5年生理科（％）

沖縄県 55.6

北谷町 58.1

差 +2.5

30％未満 23人

到達度調査の結果 6年生（数学） 中学1年生（数学）

小学校6年生算数（％）

沖縄県 65.8

北谷町 68.0

差 +2.2

30％未満 44人

中学校1年生数学（％）

沖縄県 40.0

北谷町 30.9

差 -9.1

30％未満 180人

到達度調査の結果 中学2年生（国語・数学）

中学校2年生国語（％）

沖縄県 60.5

北谷町 58.2

差 -2.3

30％未満 26人

中学校2年生数学（％）

沖縄県 45.4

北谷町 45.3

差 -0.1

30％未満 110人

到達度調査の結果 中学2年生（理科・社会・英語）

中学校2年生理科（％）

沖縄県 37.4

北谷町 35.4

差 -2.0

30%未満 136人

中学校2年生社会（％）

沖縄県 46.5

北谷町 52.4

差 +5.9

30%未満 40人

中学校2年生英語（％）

沖縄県 54.1

北谷町 59.1

差 +5.0

30%未満 46人

北谷町学びのプロジェクト 2018

北谷幼稚園・北玉幼稚園・浜川幼稚園・北谷第二幼稚園
北谷小学校・北玉小学校・浜川小学校・北谷第二小学校・北谷中学校・桑江中学校

子ども達が、互いの違いや良さを認め合い、心のつながりを感じることができる「すべての子に居場所のある」学級・学年・学校の中で、さらに、学業やよりよい学校生活づくりに、相互に協働し主体的に取り組んでいく学校づくり

1 支持的風土のある学級・学年づくり

- 「スマイルプログラム」による、体験を通した豊かな人間関係づくりと具体的な人付き合いのスキルの育成
- 「Q1検査結果」による、子ども達一人一人の理解と対応方法の確認及び実践
- 「男女で区別しない名簿」による、男女相互の人間関係のさらなる構築

2 主体的・対話的な深い学びのある授業

- 「幼稚園北谷ニライっ子実践2項目」による、学習規律、学ぶ力の基本の育成
- 「小・中学校北谷ニライっ子実践9項目」による、授業スタンダードの確立
- 「学び合い」による、学力、コミュニケーション力、学びの質の向上
- 「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」を視点とした授業改善による、児童生徒への目指す資質・能力の育成

3 組織的・計画的な指導援助

- 「組織的・計画的な指導援助システム」による、関わる生徒指導の実践
- 「1次対応」による、すべての児童生徒への一斉指導とリレーションづくり
- 「2次対応」による、気になる児童生徒への個別指導と個別援助の実践
- 「3次対応」による、不適応を起こしている児童生徒へのチーム支援と個別指導の実践

組織的計画的・指導援助システム ～1次対応・2次対応・3次対応のポイント～

	対 象	基本的対応	学習指導	学級経営	生徒指導
1 次 対 応	<u>全ての児童生徒</u> ○ 基本的対応 ○ 予防的 ○ 開発的	<u>一斉指導</u> ○ <u>全教職員</u> ・授業や行事等あらゆる教育活動で対応 ○ アンケート等	<u>対話のある授業</u> ○ 学ぶ意義 ○ 問題解決力 ○ 4つの対話のある授業 ・教材、教師、仲間、自分との対話 ○ ペアやグループで	<u>リレーションと ルールのバランス</u> ○ 教師と子ども、子ども同士の関係づくり ○ 協働と民主的運営 ・役割関係・クラス会議・勇気づけ ＊『Q-U』の活用	<u>健康的な生活と自己指導力</u> ○ 適切な睡眠・食事・運動等 ○ キャリア教育 ○ 心理教育(スマイルプログラム) ○ 生徒会児童会の自治的活動 ○ 全児童生徒の教育相談 ＊ 体験型職員研修
2 次 対 応	<u>気になる児童生徒</u> ○ 連続欠席等 ○ 言動や発達の課題が気になる子 ○ 問題対応的	<u>個別対応</u> ○ <u>担任と係</u> ・声かけや訪問 ・面談 ○ <u>連携</u> ・担任と係り等との情報交換 ○ SC・SSWの活用	<u>個別援助</u> ○ 進路目標作り ○ <u>教え合い</u> ・仲間の活用 ○ 補習 ・レベルに応じた対応 ○ 無料塾等活用	<u>承認と関係調整</u> ○ 本人とのリレーション ・良いとこ探し ○ 居場所づくり ・仲間作り・役割づくり ○ 関係修復調整 ・「いじめ」「トラブル」等対応	<u>傾聴とスキルの指導・助言</u> ○ 人間関係や問題解決の支援 ・受容と共感 ・解決志向アプローチ ○ 自己指導力育成「面談シート」 ○ ピアサポート・仲間の活用 ○ 家庭支援・勇気づけ・SSW活用
3 次 対 応	<u>不適応の児童生徒</u> ○ <u>週3欠席</u> ○ <u>月5欠席</u> ○ 繰り返す問題行動	<u>チーム支援</u> ○ <u>作業チーム</u> ・支援シートで ・SC・SSWの活用 ・子ども家庭課、福祉等専門機関活用	<u>個別指導</u> ○ 個に応じた別室や外部施設等の利用 ○ 段階的学習復帰プログラム	<u>居場所づくり</u> ○ 担任とのリレーション ○ 役割やグループの配慮 ○ 行事の活用 ○ ピアサポートチーム ○ 段階的教室復帰プログラム	<u>効果的・効率的作戦会議</u> ○ 自己指導力育成 ○ <u>環境調整</u> ・目標・本人資源・学校内外の資源 ・今までの対応・効果あるなし検証 ・方針の共有・分担分担・家庭支援 ・専門家のアセスメントやカウンセリング

教育ＩＣＴ環境整備計画（案）

学校教育課

1 計画の目的とその効果

本町の基本構想・基本計画である「第五次北谷町総合計画」がまちづくりの目標とする「豊かな心と夢あふれる教育・文化・スポーツのまち」の中で、義務教育の充実の目指す姿として、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開し、児童生徒に「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」をバランスよく育むとともに、将来の夢や希望の実現に向けて根気強く取り組む学習意欲の向上等の「生きる力」を育成するとしています。

平成32年度にスタートする次期学習指導要領には、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った学びが取り入れられています。「主体的・対話的で深い学び」は、教員による講義形式ではなく、児童・生徒の主体的なグループでの話し合い、協働での作業、発表というような双方向のやり取りを通して、児童・生徒が能動的に学習へ参加することにより、問題を発見しそれを話し合い、協働して解決して行き、これからの変化の激しい社会を生き抜く力を身に付けられるようにする学習方法です。

「主体的・対話的な深い学び」の視点に立った学びを取り入れることにより

- ①基礎的な知識や技能を確実に身に付ける
- ②考える力、判断する力、表現する力を育成する
- ③主体的に取り組む姿勢を養う

ことのできる授業を目指します。

このような学びを実現するには、授業の改善を進めることが必要となります。「思考の可視化」「思考の共有化」「試行の繰り返し」といった「主体的・対話的な深い学び」に必要な要素を、効率的に提供することが可能なＩＣＴの活用は、授業を改善するにあたって効果的な方法となります。

また、学校の業務・教職員の業務が非常に多岐にわたり、業務負担が増大している中、校務支援システムを導入し、成績処理・出欠管理・通知表・指導要録・調査書をはじめとした業務の電子化を進めることが、教職員の働き方改革に向けて重要と考えます。

2 重点取組

（１）学習用ＩＣＴの整備

- ①電子黒板（大型提示装置） ②実物投影機
- ③パソコン教室パソコンの入替・officeソフト
- ④教授用タブレット ⑤生徒用タブレット ⑥授業支援ソフト

（２）校務環境の整備

- ①校務用パソコンの入替 ②校務支援システム

（３）教育ネットワーク基盤の整備

- ①校内無線ＬＡＮ ②セキュリティポリシーの策定
- ③セキュリティ対策（強靱化・二要素認証） ④ファイルサーバー容量の拡大

（４）教職員のＩＣＴ利用活用の推進

- ①業者研修 ②ＩＣＴ支援員研修 ③校内研修 ④公開授業全体研修
- ⑤小中連携授業研修

3 実施内容の現状と計画

重点取組の項目	実施内容	状況・予定
1 学習用 I C T の整備		
①電子黒板（大型提示装置）	各教室へ新規配備	H 3 0 年度整備
②実物投影機	小学校各教室へ配備 中学校各教室へ配備	不足分今後計画 タブレットで代用
③パソコン教室パソコン	機器更新入替 （キーボード脱着式） officeソフトの導入	H 3 1 年度更新
④教授用タブレット	中学校各教諭へ新規配備 小学校各教諭へ新規配備	今後計画 今後計画
⑤生徒用タブレット	グループ → 個人へ拡充 パソコン室パソコン併用	今後計画 3 クラスで 4 0 台へ 一人 1 台へ
⑥授業支援ソフト	タブレットで使用	タブレット購入時
2 校務環境の整備		
①校務用パソコン	機器更新入替	H 2 9 年度購入済み
②校務支援システム	中学校ソフト更新入替 小学校新規配備	H 3 1 年度 4 月運用 H 3 1 年度 4 月運用
3 教育ネットワーク基盤の整備		
①校内無線 L A N	許容数拡大へ更新	H 3 0 年度
②セキュリティポリシーの策定	新規整備	H 3 0 年度
③セキュリティ対策	強靱化又は二要素認証	H 3 1 年度 4 月運用
④ファイルサーバー容量	容量の拡大・増設	③と関連して整備
4 教職員の I T C 利用活用の推進		
①業者研修	導入機器の使い方研修	導入後すぐ
② I C T 支援員研修	使い方研修、技術支援	導入後適宜
③校内研修	I C T 活用方法を視点に	導入翌年度から
④公開授業全体研修	I C T 活用方法を視点に	導入翌年度から
⑤小中連携授業研修	I C T 活用方法を視点に	導入翌年度から